

富山市定例市長記者会見（令和3年1月4日）

■冒頭

市長

年が改まりましたので、改めてご挨拶いたします。あけましておめでとうございます。本年もよろしく申し上げます。2年ぶりというか、3年目というか、お正月に雪があるというのはこの2年間なかったので、大変な面もありますが、季節感という意味では良い正月だったのかなと思います。

2日に日枝神社と私の地元の姉倉比売神社に行きましたが、参詣者は圧倒的に数が少ないというお話でした。元旦はどうであったか分かりませんが、少なくとも外に出ることについて皆さん遠慮があって、コロナ対策という意味では良かったと思っています。

さっそくですが今日は、2点について報告したいと思います。

■「富山ガラス大賞展2021」作品の応募結果について

市長

まず一つは、昨年7月に発表させていただきましたが、2018年に続き2回目の開催となる、国際公募展「富山ガラス大賞展2021」の出展作品を昨年7月1日から12月10日までの5か月余り、163日間にわたり募集してまいりましたところ、このたび、応募結果がまとまりましたので、ご報告いたします。

今回は、世界51の国及び地域の756人から、1,126点の応募がありました。3年前、初めて開催しましたときは、1,110点、世界46の国及び地域の765人の作品応募がありました。今回は、前回より作品数では16点、応募のあった国等の数では5カ国増加しております。なお、国別で最も応募作品が多かったのは、日本国内の279点ですが、海外からの応募が、アメリカの137点、チェコの77点、イギリスの70点など、全体の約75%を

占めております。

世界的に新型コロナウイルス感染症が拡大している状況下において、前回は上回る多くの応募があったことにつきましては、正直驚いているところです。また今回は、前回応募のなかったインドネシアやウクライナ、ウルグアイなど新たに 10 カ国からの応募があるなど、作家の皆様の旺盛な創作意欲に加え、富山ガラス大賞展の世界的な認知度の高まりが、今回の結果につながったのではないかと考えております。

今後の主な日程につきましては、当初、2 月に画像審査、4 月に実物審査を実施することとしておりましたが、新型コロナウイルス感染症の流行状況を鑑み、国外審査員には来日を控えていただき、個別にリモートによる画像審査を実施することとしております。

最終的には、今後の新型コロナウイルスの感染状況にもよりますが、展覧会開催の 7 月に、国外審査員を含む 2 次審査員 6 名による実物作品審査をガラス美術館で実施し、大賞を含む入賞作品 9 点、(内訳は) 大賞 1 点、金賞 1 点、銀賞 5 点、審査員特別賞 2 点を決定し、その後、7 月 10 日から 10 月 3 日まで、休場日を除くと 81 日間、約 50 点の入選作品を一堂にご紹介する展覧会を富山市ガラス美術館で開催することとしております。

先ほど感染状況によると言いましたが、今は海外からの方を含む 6 名による審査を予定していますが、入国がかなわないとか、入国後の 14 日間の隔離とかいろいろなことがあって、おいでになりにくい状況も容易に予想がつきますが、今後の状況をみながら臨機応変に対応していきたいと思っております。

先ほども言いましたが、コロナ禍が世界的に大きな問題となっている中で、これだけの応募があったことについては、大変喜ばしいと受け止めております。本公募展の開催が、地域の芸術・文化の活性化に寄与することはもちろん、現代ガラス芸術が持つ魅力と可能性を富山市から世界に向けて発信し、またシティプロモーションの推進及びシビックプライドの醸成に大きな効果をもたらすものと考えております。

なんとか海外の審査員の方に来ていただきたいと強く期待をしているところです。3年前はおいでになる予定の方が一人おいでにならなかったことがありましたので、今度こそ国際展にふさわしい審査員の顔ぶれが富山で揃っていただくということを、ぜひ実現したいと思います。

今回応募のありました1,126点の作品につきまして、私自身は写真でもまだ見ておりませんが、どの作品も独創的で表現豊かな作品だと聞いておりますので、ぜひ、7月の展覧会の開催まで、皆様にも期待して楽しみにお待ちしております。

■ 「富山市SDGsウィーク」の実施について

市長

次に「富山市SDGsウィーク」の実施についてご報告いたします。

SDGsは、「世界中の誰一人取り残さない」を基本テーマに、持続可能な社会を構築していくための共通目標を掲げたものであり、市民レベルでも、一人ひとりがライフスタイルの中でSDGsを意識していくことが重要であると考えております。

そこで、SDGsのより一層の普及展開に向け、市内各所において、多くの市民がSDGsを知り、理解し、実践する機会を創出することを目的として、1月25日から31日にかけて、集中的にSDGs関連イベントを開催する「富山市SDGsウィーク」を実施いたします。

当該期間中は、民間企業や市民を対象としたSDGsを体感するカードゲームや料理教室、セミナー等の各種イベントを実施いたします。

また、1月31日に開催する「富山市SDGs推進フォーラム」では、本市の政策参与を務める映画監督の本木克英さんによる基調講演、SDGsの衣装を身にまとったハローキティのクイズショー、「今、富山市の未来を語りあう～withコロナをみんなでかんがえよう～」と題しまして、

SDGsの推進に取り組む企業を交えたパネルディスカッションの実施等を予定しております。

こうした取り組みが、多くの市民の皆様によりSDGsについて考えるきっかけとなり、より一層の普及展開につながるものと考えております。

■ 質疑応答

記者

今限りで退任する森市長の後任を決める4月の富山市長選に向け、これまでに名乗りを上げている人物について、市長の所感をお聞かせください。また、富山市長選はどのような展開になると予想されているのか、市長の考えも併せて教えてください。

市長

報道されている一人ひとりについて所感を述べるというのは避けるべきでしょうし、あの人はこういう人柄である人は、みたいな感じでは、深く付き合いのない方もいるし、申し上げることはできませんが、今までのところ、年末に3人、一人ひとり個別に、ご挨拶に来られました。立候補をしようと思っているというご挨拶に市長室の方へ来られました。

それで、こういうふうに申し上げました。一つだけなのですが、私が平成14年1月に実施された旧富山市長選に初めて臨むにあたって、前年の平成13年10月4日にマスコミの皆さんに発表した政策があります。こういう社会を実現したい、こういう市政にしたい、こういう市の顔を作っていきたい、市民生活をこうしたいというような基本的な考え方を述べて、さらに細かな施策もかなり多く書いたものですが、それをお示しして、ただ立候補するだけでは、駄目じゃないですか。出たいと宣言されるからには、一人ひとりの政策をちゃんと提示されるべきではないかとお伝えして、一部の人には平成13年10月に出したもののコピーを渡しました。まだ、そういうものが発表されたという報道に触れていないので、これからだと思いますが、やはりそういうことは必要ではないかと思えます。まず

ビジョンを示して、手を挙げるということが必要だろうと思いますので、そういったものが出そろった時にその考えや方向性について、私が意見を述べることはあり得るかもしれませんが、人柄その他について申し上げることはやるべきではないし、また、出来ません。

それから、選挙戦がどうなるかについては、よく分かりません。（自民党については）新聞報道で読んだ限りにおいては、党员票と議員票と世論調査をして、1人に絞るための参考資料を作るというようなことですが、それから先の細かいことが分からないので、どのように選んでいくのか。点数化して点数の多い人にするということなのか、それとも参考資料にして選考委員会で選ぶのかそのあたりが分からないので、どうなっていくのか。1人になっていくのか、その作業がうまくいかないのかも含めて見通せないのです。

さらに、その上で自民党籍でない方、吉田さんを筆頭に何人か名乗りをあげていらっしゃるのです、いずれにしても多人数の選挙になっていくだろうと思います。

市会議員の皆さんの選挙と同日なので、かなり賑やかな選挙ウイークになるのではないかと思います。

記者

コロナ関係で2点お聞きします。富山市内でも感染の状況が広がっている中で、昨年12月25日に富山アラートが発令されました。市として、これを受けて、出初め式など一部イベントの縮小や中止が発表されていますけれども、その他に特別な対応を考えているのか。

もう1点はワクチン接種のことでお聞きします。執務始めの時にも言及されていましたが、今の厚生労働省の案では、4月以降に一般市民への接種が始まるというようです。そこで、このワクチン接種のあり方について、41万人の市民がいる中で、インフルエンザのような方法で接種をしていくのか、何か会場を割いてやるのか、どのようなやり方でやっていくかについてお聞かせください。

市長

28日にも新田知事とお話しましたし、昨日もお話をしました。28日か

ら昨日までの間の年末年始も、富山市で複数人の陽性患者が出ており、県全体で言うと 10 人の日もあったと記憶しています。今おっしゃったように、その前 11 月から 12 月にかけての流れからみると、少し人数が多くなっていると。検査数が増えて、結果的にそれと相関しているということなのかどうか分かりませんが、確実に陽性患者の数が増えているので、富山アラートを発出されてまだ日がありませんが、例えば、何かもう一度アピールする必要があるのではないかと、実は昨日も話をしました。おそらく県の方から、こういう事をしようとか、あるいは市としてこういう事をやって欲しいとか、市としてこういう事をやりたいとかいう話を、今日から執務が始まったばかりなので、なるべく早いうちに意見交換をすることが大事だろうと思います。

それよりも先ほどの総理の記者会見で、今週中に緊急事態宣言をするかどうかという記者会見で、おそらくするんだろうと思いますが、そうなるとう 1 都 3 県とその他の地域での行き来がどう制限されて、どういうことになっていくか、週末までには見えてくるかと思っています。これを踏まえて、富山市、富山県で協議していく必要があるのだろうと思っています。

個人的には、年末年始にずっと毎日メールで連絡があったので、これは何か県と協議していくべきだなという思いでいました。そういうこともあって、昨日も話をしました。

ワクチンの問題は、今朝の部局長会議で福祉保健部長から報告があったことは、ワクチンの接種をどうやっていくかは、大変難しい作業なので、新たに組織を立ち上げて、現場の保健所の体制も増員して、一部併任辞令も出したりしながら、迅速にやれるような体制作りを急いで作らないといけないと思い、福祉保健部中心に関係部局と連携会議を始めていくと。とりあえず、12 日を目途に、一定の体制が出来た時点で、福祉保健部から発表するだろうと思います。

私が福祉保健部から聞いている国から求められているものは、基本的に 7 月ごろまでに全ての市民の接種を終えるということのようです。おそらくオリンピック、パラリンピックまでに終わるということ国中で求めて

いるのだと思います。逆算すると、大変難しいハードなスケジュールになってきます。その上で、マイナス 70 度の冷凍保管装置というものが、市中のクリニックの先生方が持っているはずがないわけです。それから、大量のものを保管できる施設と言うと限られてくるわけで、それをまずどう確保するのかどうかということ。国は手当てをすと言って連絡が来ているようですが、物として手当てしてくれるのか、費用を手当てしてくれるのか、まだはっきり分かっていません。

さらに、一定程度の量が一体として冷凍されていると予想されるので、それを解凍した場合に、その解凍した数だけの人に集団接種をしなければいけないわけですので、場合によると体育館などに来ていただくなどということイメージとしては予想しています。それも含めて、これから詰めるということになります。

とにかく 42 万人いて、約 1 万人は医療従事者です。これは県が対応されるそうで、残りの 41 万人を市が基礎自治体としてやらなければいけないので、カテゴライズして第 1 次の方、第 2 次の方、第 3 次の方としていくにしても、慢性疾患を持っている方を優先していくわけですね。そうすると、その把握をどうしていくかということなども含めて、大変難しい作業だと思います。

例えば、病院とか介護施設に入っていらっしゃる方は、その施設で接種してもらえばいいので、必要な数だけその施設にお届けし、現場で接種する。問題は、在宅でいらっしゃって慢性疾患をお持ちの方。さらに次のプライオリティーで言うと、65 歳以上の方。65 歳以上の方だって 11 万人とかいるわけなので、その方々にどうスピーディーにやっていくか、これから体制を考えていかなければならない。それぞれの方に文書を出して、あなたは何月何日から何月何日迄の間にどの会場で受けてくださいと。それも 2 回受けなければならないわけなので、大変困難で難しい作業を大急ぎでやらなければならない。2 月いっぱいまでには体制作りをして、3 月からは接種を始めていくということになるのだらうと思います。

41 万人に 2 回接種するための体制を医師会と相談してどう作るかという

と、1回の接種に2千くらいだったかな、いずれにしても単純計算したら、17億円かかるわけです。それを医療機関に払わなければいけないわけで、それは国が全額負担されるということになってはいますが、今の3次補正で計上してあって、3月までに来るだろうと思いますが、スタートまでにそれ（国からのワクチン接種費用の負担金）が来るかどうかは別なので、一時的にはそのような事務費についても、負担していかなければいけないだろうと思います。

もう一つ、年末に福祉保健部長から聞いたのは、ごく稀に副作用でアナフィラキシーなどが出ると。接種する時にドクターにいつも居てもらわなければいけないのではないかと福祉保健部長が心配してはまして、どのドクターにご協力いただくかになると、富山市医師会ともしっかり話をしなければならぬだろうと思っています。まだ、詳細が厚生労働省から来ていないのですが、体制だけは、来週からしっかり作っていくと。今、報告で聞いているのはそういう情報しかありません。

65歳以上の接種になったら、私が真っ先に接種を受けて「皆さんも受けましょう」と声をかけなければならないのかなということも思ったりします。それをやると早く受けたいと思っている方の中には、「あいつは役得で一番に受けている」と評価する人もいると思いますが、躊躇している人も沢山いらっしゃると思うので、みんなで受けます、私が率先して受けます、ということをお示しすることも大事なのかと、今ぼんやりとそのようなことも思っているところです。

記者

今日から水道料金がスマートフォン決済で出来るようになったと思いますが、改めて狙いやスマートフォン決済で出来るようにした意図を教えてください。

市長

上下水道局が判断したことなので。こういうふうにしていきますという報告は、昨年、聞いていました。要するに時代の変化に合わせて、使用料

金の受入体制についても、いろんな側面を作っていくことは、利便性の向上という面で大事だと思います。クレジットカード決済だとか、電子決済システムとか、これからまだまだ間口を広げて欲しいという要望は、市民の皆さんから出てくると思っていますので、出来る範囲で対応していくことが望ましいと思います。一方では費用対効果も考えていかなければいけないと思いますが、（スマートフォン決済は、間口を広げる）その一環だと思います。

記者

去年の年末に新田知事が全国知事会で国に対して要望してほしいと取りあげていたのが、過去の新型インフルエンザのワクチン接種の時に現場で混乱が見られたので、早めに情報を提供するような要望をするように提示しましたがけれども、富山市が基礎自治体として準備をする中で、国や県などに事務的な予算の話や先ほどの冷凍庫の話もそうですが、何か要望することがあれば教えてください。

市長

現場で実施をするにあたって必要とされる様々な情報を早く欲しい、ということです。細かいことが分からないまま、今、組織作りをしようとしていたりしているわけで、今週1週間でのどの程度、厚生労働省から示されてくるかということは、まだ分かりませんが、かなり進むのではないかと思います。

心配だと思っていることは、先ほどある方とお話をしたらご指摘がありました。大学生とか、体は富山市内にあっても住民票を動かしてない方がおられるわけです。これは市としては把握のしようがないわけなので、例えばそういう方がいらっしゃる企業にも、お勤めになりながら、まだ住民票は富山市に登録されていない方がいらっしゃるとうると、なるべく早く住民票の異動をして欲しいということなどがあります。

国からのものについては、情報を待ってそれに合わせるように体制を作っていきますが、外にあるものについては今言ったようなことや、かかり

つけ医の方はその方の既往症や症状が分かっているけれども、市がそれを把握できているかということ、もちろんそうではないわけなので、そういうことの情報交換をきちんとやることも大事にしないと（いけません）。医療関係者や介護などに従事している人が第1カテゴリーで、次（第2カテゴリー）が糖尿病とかいろんなもの（基礎疾患）を持っている方、この第2カテゴリーの総数を早く把握するために、関係する機関同士の情報交換というものを急がなくてはならないと思います。

年齢は、65歳以上というのは把握できることなので、クーポンみたいなものを作って、市からそれぞれ発送していくということだと思います。

もう一つは、先ほども言いましたが、マイナス70度で保管する冷凍保管庫の手当てを国から早く示して欲しいということですね。

いくらやっても（ワクチンを）打たないという人をどうするか、という問題は、一番最後に残るだろうと思います。これも予防接種法に基づいて、義務化することを国がやるかやらないかということなどもあると思います。

記者

今ほどコロナ関連で、これだけ具体的なスケジュール感を聞いたのは初めてです。年明けに1日10人位（感染者が）出たりして、富山市民の間では身近にある危機が肌感覚であるのですが、そういう意味では、県や国との情報交換であったり、お互いにコロナに対する体制が以前より密に情報交換をされているようですが、いかがでしょうか。

市長

スケジュールについては、おそらく国から示されて7月いっぱいとか、これくらいまでに終わるようにやって欲しいという要請はおそらくメールか文章で来ているのだと思うのですが、それからさかのぼって、福祉保健部できっとこの時期にはこれを開始しなければならない、この時期にはこうしなきゃならないという意味でスケジュールをこちら側で想定して

いるものなので、いつから開始してくださいとか、いつまでにカテゴライズしてくださいみたいなことが国から示されているわけではないと思います。

ただ、なるべく体制を急いで作って、例えばワクチンが届いたらすぐ動ける体制作りを今から先読みしながらやっていくということだと思っています。

問題は、富山市は保健所があって保健所を中心に進めていくことができますが、富山市以外は保健所がないので、それはもっぱら県と各市町村が連携しながら、先ほど言った分類をしたり、いつどう発送するかということをおそらく県と14市町村でしっかりと協議してこれから動いていくのだらうと思います。

だから富山市は出来るところは自分の所でももちろんやりますが、県の厚生部と市の福祉保健部はそれぞれで連絡を取り合っていると思います。少なくとも先ほど言いましたように仕事納めと執務始めにあたって、知事と話をしていますので、今後もそのように流れていくのだらうと思います。

記者

トップ同士で情報交換をする意味合いは非常に大きいと思いますが、いかがでしょうか。

市長

何せ、私の後援会長だった人なので、個人的にプライベートな時間を持つということがありますから、そういう際に意見交換をしているということです。

※ 発言内容を一部整理して掲載しています。・・・富山市広報課